

自分と向き合い、友だちを大切にする学級づくりのために

神奈川県横浜市立杉田小学校 教諭 金子 実

小学校4年 特別活動 いじめをノックアウト

番組の特徴

「いじめを許さない心」を育てるために、実際にあった話をもとにいじめについて考えることで、自分たちの生活を見つめたり、これからの生き方を考えたりすることができる番組である。

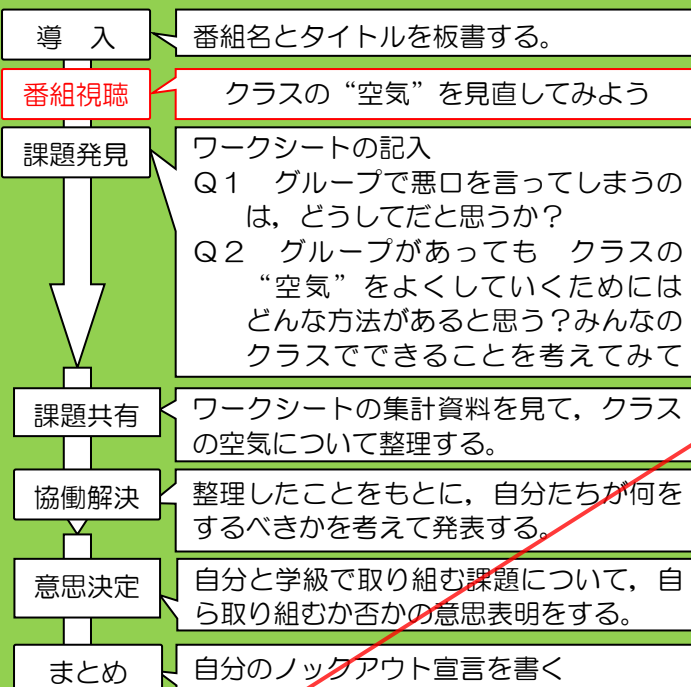
研究の概要

ドキュメンタリー構成の番組は、子どもたちに様々な事象を具体的に伝え、考えるきっかけを与えてくれる。本年度もこの番組を子どもたちの生活における課題に応じて視聴し、学習を展開することにした。全員で学級の課題を共有化し解決策を考え、自分のできることを表明することができるようにすることで、よりよい人間関係や学級づくりを目指すことができた。

授業デザイン

(1) 学級や学校の生活づくり

ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決



番組や関連動画クリップの活用意図

番組の視聴で自分たちの生活を客観的にとらえる
番組のテーマを自分の生活と照らし合わせながら視聴する。登場するのは中学生だが子どもたちにとっては近未来の自分たちの姿である。よりよい生活を思い描くために今の問題を直視し、解決策を見つける。番組内容と「みなみの考え」が、思考に寄り添う
話し合いを広げる、活発化するためにはどんな考えを持ち、行動したらよいか。番組に出てくる人や高橋さんの意見が、子どもたちの考えを後押しして、意見交換のきっかけやヒントを与えている。

授業デザインにかかわる教師の工夫

- ワークシートの意見を集約し資料に
 - 人間関係を考慮してワークシートの記載を集約し、資料化する。
 - 資料を配布することでより自分事としてとらえて考える手だてとする。
- 板書は図式化してポイントを明確に
 - 発言は箇条書きにするだけでなく、内容に応じて並列、対立、発展、結論などを図式化する。
 - 教師のアドバイスやキーワードとなる言葉は色を使って明確にする。
- 進行は子どもに任せる
 - 課題から導かれる意見や結論、行動化は子どもたちの意志がなければ実現しない。そこで話し合いの進行と個人・全体の意思決定は子どもたちができるように教師の発言は最小限にする。

生き生きと学ぶ子どもの姿

子どもの反応や感想より

- 自分を振り返って、いろいろやってしまったことを考えることができたのでよかった。
- みんなが思っていることが分かり意見が出せて、良い話し合いになった。みんなが自覚をもてた。意識が高まった。

子どものアンケートから

- 「いじめについて、深く考えることができた」「自分をふりかえることができた」「人の気持ちを考えることができた」

同僚の評価

- 子どもたちが自分から考えて結論を導き出せるのがすごかった。そのような授業の展開を自分もできるようにしたい。

実践を終えて〈行動宣言〉

子どもの感想の中に「映像があるから分かりやすく、コメントもあるから勉強になった」「ドラマではないきちんとしたものを見ることができて、勉強になった」とある。10分という時間の中でこれほど訴える力を持つ放送番組を、如何に有効活用できるかが学校現場の責務であることを、改めて感じることができた実践であった。これからも年間を通して子どもたちの生活に寄り添う形で、番組を活用していきたい。